

令和5年度

地域とともにある学校づくり

ひばりが丘中学校 3年生

コミュニティ・スクールの充実

# 西東京ふるさと探究学習

単元名：意見文発表会 「15歳の主張—私たちの身近な問題—」  
(活動名)

ねらい：①西東京市など身近な出来事から社会に対する問題意識をもち、自分の考えをまとめ人に伝える力を身に付ける。  
②友達の意見を聞くことで自分の視野を広げ、改めて身近な課題の解決を図ろうとする意欲を高める。



意見文発表会では、西東京市などにおける身近な課題について考えていくと、SDGsにつながっていくことを実感した生徒がいた一方で、SDGsを意識して課題を捉えていくことで、身近な課題を発見できた生徒もいた。特に、身近な課題として「環境問題」（ゴミのポイ捨てやリサイクル）、「食品ロス」、「個性、多様性」の課題に関心が寄せられていた。



## 生徒の意見文より

- ・昨年度、このひばりが丘中学校では、実に3トンを超える量の食材が廃棄されました。3トンの食材を言い換えると、1人が約10年間で食べる量と同じ量になります。私はこのことを知り、私達がいかに恵まれているか、そしていかにもったいないことをしたかを痛感しました。(中略) 私達が学校給食の残菜を減らしていけば、そのうち適切な量の食材が私たちに供給され始め、これまで廃棄されていた分の食材が世界に届けられるのではないかと思います。
- ・(前略) あなたは表面だけの情報で人を判断してしまっていないか、今一度振り返ってみてください。本来の自分と偏見によって生み出されたギャップに苦しみ、自分を生み出すことを控えてしまう人もいます。(中略) (偏見の解決策は) 自分の知識や経験を過信しすぎないこと、普段から客観的な視点を取り入れることです。
- ・私は人間はみな個性的であり、その個性は否定されるべきではないと思います。だから相手の考えを尊重し、話に耳を傾け、分かり合おうとする姿勢をもつことが必要です。

## まとめ コラム

第3学年では、1年生で西東京市などの身近な地域について、2年生ではSDGsについて学び、特に関心の高い項目について調べ、現状や今後の課題、展望についてまとめたものを発表しました。それらの学習を踏まえて、3年生では改めて身近な課題に目を向け、その課題の解決方法などを模索することで、自身の周りのことや地域のこと、さらにそれらはSDGsに深く関わっていくことを学びました。身近な視点と世界に視野を広げた見方で、社会に関心をもつことができました。